科学研究費補助金研究成果報告書

平成22年 3月31日現在

研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2008~2009 課題番号: 20790932

研究課題名(和文) トリプルネガティブ乳癌に対する革新的な分子標的薬の開発に関する

研究

研究課題名(英文) Rho-kinase (ROCK) as a Novel Therapeutic Target in Treatment of Breast

Cancer. 研究代表者

塩谷 聡子 (SIOTANI SATOKO)

独立行政法人国立病院機構九州がんセンター臨床研究部・統括診療部・非常勤医師

研究者番号:90419549

研究成果の概要(和文):

乳癌薬物治療における新たな分子標的としての Rho/ROCK 経路の可能性

研究成果の概要 (英文):

Rho-kinase (ROCK) as a Novel Therapeutic Target in Treatment of Breast Cancer.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合 計
20年度	1, 300, 000	390, 000	1, 690, 000
2 1 年度	1, 900, 000	570, 000	2, 470, 000
年度			
年度			
年			
度			
総計	3, 200, 000	960, 000	4, 160, 000

研究分野:医歯薬学

科研費の分科・細目:外科系臨床医学・外科学一般

キーワード: 乳癌、triple negative、ROCK

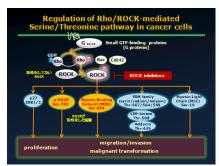
1. 研究開始当初の背景

日本で開発された ROCK 特異的 阻害剤の有用性について検討するトランス レーショナルリサーチが必要である。

2. 研究の目的

Rho/ROCK/MBS 経路は癌細胞の遊走・浸潤・増殖に関与している。我々はこれまでの研究により乳癌組織においてROCK活性化症例はリンパ節転移の頻度が高く、予後不良であり、将来的にはすでに臨床応用可能なROCK特異的阻害剤が乳癌の新たな薬物療法に有用である可能性について報告してきた。本研究ではトリプルネガティブ

(TN) 乳 癌 に 着 目 し て 始 め た が 、Rho/ROCK/MBS 経路はTN乳癌のみで働く経路ではなく、全乳癌を対象とした検討が必要であることがわかった。また将来の阻害剤の臨床応用を考慮して、ROCK阻害効果の指標としてはROCK2、p-ROCK、さらに基礎研究で汎用されるMBS(myosin binding subunit)の活性化(p-MBS発現)についての検討をする必要性が出てきた。



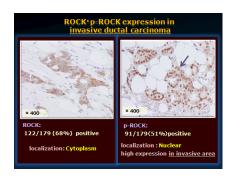
本研究の最終目的は乳癌組織における ROCK 活性化の評価として ROCK2、p-ROCK、p-MBS の発現意義を臨床病理学的に明らかにして、既存の阻害剤の臨床的有用性を検討することにある。

3. 研究の方法

原発性乳癌 179 例を対象として浸潤部における ROCK2、p-ROCK, p-MBS の発現を免疫組織化学染色で解析した。

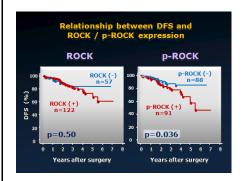
4. 研究成果

臨床病理学的検討により、ROCK は細胞質に発現しており、67.3% (148/220)に強陽性であった。活性型の p-ROCK は核に発現しており 46.8% (103/220)に強陽性で浸潤部で強発現している特徴があった。

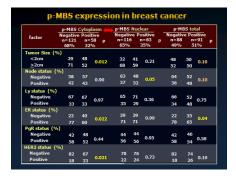


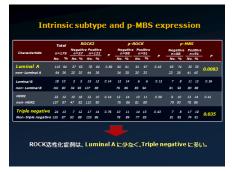
p-ROCK の発現はリンパ節転移(p<0.0001)、リンパ管侵襲(p<0.05)と有意な相関を認め、p-ROCK 陽性例で有意に予後が不良であった(p=0.014)。

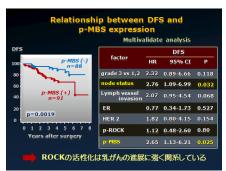
R	OCK protein expression			p-	p-ROCK protein expression		
factor	Negative n=57 (32%)	Positive n=122 (68%)	P value	factor	Negative n=88 (49%)	Positive n=91 (51%)	P value
Tumor Size (%)				Tumor Size (%)			
<2cm	44	43	0.96	<2cm	41	46	0.48
>2cm	56	57		≥2cm	59	54	
Node status (9	6)			Node status	(%)		
Negative			0.95	Negative			<u><0.0001</u>
Positive				Positive			
Ly status (%)				Ly status (%			
Negative	65	68	0.68	Negative	70	64	0.34
Positive	35	32		Positive	30	36	
ER status (%)				ER status (9	6)		
Negative			0.33	Negative			
Positive		74		Positive			
PgR status (%				PgR status (%)		
Negative	49	42	0.36	Negative	45	43	0.73
Positive		58		Positive	55	57	
HER2 status (9	6)			HER2 status	(%)		
Negative			0.92	Negative		82	
Positive	23	22		Positive	27	18	



total p-MBS 陽性例は ER 陰性症例 (p<0.05)、 HER2 陰性症例 (p<0.05) に有意に高発現しており、腫瘍径<2cm (p=0.1) リンパ節転移陽性症例 (p=0.1) に高発現する傾向を認めた。また多変量解析では独立した予後不良因子であった (p=0.025)。







細胞質、核における発現で分類した解析では、細胞質p-MBS発現はER陰性症例に多く、特に腫瘍径<2cmでp-MBS発現症例は有意に予後不良(p<0.05)であることが分かった。核p-MBC発現は発現例で有意に予後でした。で(p<0.05)あり、p-ROCKと強く相関しての(p=0.0014)リンパ節転移症例が多いのた(p=0.1)。本研究を含めた我々のにあった(p=0.1)。本研究を含めた我々のいまでの研究結果より、乳癌組織においるにあった(p=0.1)。本研究を含めた我々のいた。ないまでの研究結果より、乳癌組織においてRho/ROCK/MBS 経路が活性化した症例のこてRho/ROCK/MBS 経路が活性化した症例するに、これをであることが明らかとなった。前に、中であることが明らかとなった。前に、中である。で、臨床応用を考えていくべきである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者 には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件) 現在作成中(3件)

〔学会発表〕(計5 件)

①Shiotani S. et al. 「Phosphorylated Rho-kinase (ROCK) as a Novel Therapeutic Target in Treatment of Breast Cancer.」 American Society Of Clinical Oncology (ASCO 2008)

②塩谷聡子 他

乳癌薬物治療における新たな分子標的としての Rho-kinase の可能性 第46回日本癌治療学会総会 シンポジウム 2008 年 10 月 30-11 月 1 日名古屋国際会議

③塩谷聡子 他

乳癌における ROCK (Rho-kinase)蛋白の発現と分子標的治療の可能性 第 16 回 日本乳癌学会 一般口演 2008年9月26日-9月27日大阪国際会議場

④塩谷聡子 他

乳癌薬物治療における新たな分子標的としての Rho/ROCK 経路の可能性

第 109 回日本外科学会 パネルディスカッション 2009 年 4 月 2 日~4 月 4 日福岡国際会議場

⑤塩谷聡子 他

乳癌薬物治療における新たな分子標的 としての Rho/ROCK 経路の可能性

第47回日本癌治療学会総会

シンポジウム:新薬導入による乳癌治療の 新たなる展開

2009年10月21-10月24日

〔図書〕(計 0 件) 〔産業財産権〕 ○出願状況(計 0 件)

名称: 名明者: 種類: 種号: 田内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称: 名称: 老明者: 種類: 番号: 取得年日

取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

- 6. 研究組織
- (1)研究代表者

塩谷 聡子 (SIOTANI SATOKO)

研究者番号:90419549

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

(

研究者番号: